

【三重】中田商事（中田純一社長、伊賀市）はこのほど、本社を含む3営業所間でIT点呼をスタートさせた。

原則として業務開始前には対面点呼を実施しなければならぬ。同社は午前4時から午後7時まで欠かさず対面点呼を実施しているものの、それ以外の深夜・早朝にトラックに乗る乗務員など約4割程度は実施できていなかった。

中田社長は「深夜・早朝に点呼要員を配置するのは、われわれ中小の企業規模では現実的に

「安全輸送」を強固に 全員参加のIT点呼

中田商事

困難」と説明する一方で、乗務員の当日の体調管理ができないことや、それにもなう事故の懸念など、点呼しない不安もあった。

そこで本社、四日市、岡山の各営業所にカメラ付きアルコールチェッカーを設置。出発前の乗務員すべてにチェックを義務付けた。そうすることで、これまで同様、深夜・早朝に点呼要員はいないものの、乗務員の飲酒の有無や顔色などがデータとして残るだけでなく、万一、アルコールを認知した場合、リア

IT点呼で安全向上へ



ルタイムで管理者に電子メールが届く仕組みとなっているなど、安全確保に対する効果が高いと判断。さらに、近く取得予定のGマークに備えてIT点呼の運用だけでもしておきたいという考えもあるという。

設備投資300万円、毎月のランニングコストは5万円と決して安くはないが、「安全には代えられない。また、こうした厳しい時代を勝ち抜くために、全員が参加する意識を持つことに意義がある」と中田社長は話す。

（加藤 崇）